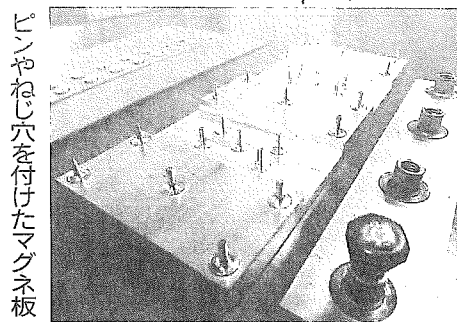


海外現地法人

# 17年度銅電線出荷6%増

## アルミ大幅伸び9.2万トン

品種ごとの内訳として、銅電線出荷は日本向け輸出で4万1640ト(27.1%増)、その他40万7207ト(4.2%増)金額ベースで、銅電線は550億



マグネシウムは実用金属で最も軽く、輸送機の軽量化などに寄与する材料として将来的な需要拡大が期待される。同社はマグネの高速圧延技術を持ち、新エネルギー・産業

技術総合開発機構(NEDO)の高速鉄道車両向け難燃性マグネシウム合金の開発プロジェクトにも参画している。このほか、エキスポインテントと呼ばれる耐震用建材の材料として、数年前から同社の難燃性マグネシウム合金板が一部採用されている。これに伴い曲げ加工設備も導入した

# 安価な水素発生電極 筑波大・阪大が開発

必用単位保持

**マグネシウム協会**  
**17年度協会賞表彰**  
**特別功労賞に中村氏**

日本マグネシウム協会(山崎一正会長)はこのほど、2017年度日本マグネシウム協会賞の表彰式を行った。特別功労賞に選ばれた受賞者を代表してあいさつをした中村弘之氏(前東海理化)は、2015年に自動車マグネシウム協会を立ち上げ、だいたいども立ち上った。電気自動車(EV)にシフトする中、放熱性が良く軽量のマグネは、コンパクター・インバーター、モーターケース、バ

テリケースなど、適用できる部品が多い」と話した。  
 その他、功績賞には齋藤尚文氏(産業技術総合研究所・構造材料研究部門・軽量金属材料計グループ・上級主任研究員)が選出された。奨励賞には上田祐規氏(不二ライトメタル・技術本部・研究開発部)。研究開発チーム長)と森重大樹氏(関西大

# 権田金属

# マグネ用途開拓に注力

## 多彩な加工・接合実現

大物黄銅棒や銅スパーなどの伸銅品とマグネシウム板を製造する権田金属工業(本社相模原市中央区、権田源太郎社長)は、マグネ製品のさまざまな加工や用途開拓に力を注いでいる。大学の研究者などと連携し、マグネの板にピンやねじ穴を付けたリ、リベット接合したりする技術を開発。加工の幅を広げることで、マグネの軽さを生かしたテーブルなど新たなニーズを掘り起こしたい考えだ。

板へのピン立てとネジ穴を付ける技術を、加藤敦良日本大学名誉教授の指導を受けて開発した。リベット接合の技術も開発。いずれもベースとなる厚板にへこみなどの影響を与えない。こうした加工が容易にできるよ

れば、身近な建材などにマグネを使いやすくなるとみている。  
 2月には、建築テザインなどを研究する東京大学生産技術研究所の川添善行准教授の依頼を受け、同研究室がテザインしたマグネ合金製のテーブルを2台製造した。材料は難燃性の「AZX611」で、上面に厚さ3mm、側面に2mmの板を使用。サイズは高さ550mm、幅1400mm、奥行き550mmで、直径10mmの脚を付け、

は工場持ち込み渡し、1200字形ベース、油水分最大0.8%。オフィス防災展空気電池を出展古河電池

同研究室のイベントで使われた。  
 権田社長は、「ピン立てやねじ付け、接合の技術で、日常的などにも用途を広げていきたい」と話す。

**黄銅削り粉 買値20円下げ**  
 日本伸銅573円

日本伸銅は27日、黄銅削り粉の購入価格をキロ20円安の573円に改定したと発表した。銅・亜鉛建値の続落を映した。購入条件

古河電池はこのほど、7月11-13日に東京ビッグサイトで開催される「第12回オフィス防災EXPO」に出展すると発表した。水を入れるだけで発電できる非常用マグネシウム空気電池「マグボックス」などを展示する。

学： 研究 日 研究